

●今日の聖書はイエス様が弟子たちに、どのようにこの世で生きるべきかについて語られた「山上の説教」と呼ばれる箇所です。

ユダヤの社会には昔から「目には目を」という復讐法がありました。この法律は過剰な報復を禁止するものであり、損害には同じものをもって償うべきだとされたのです。しかし、イエス様はここで全く新しい教えを述べられました。

●「誰かが右の頬を打つなら左の頬をもむけなさい」、「下着を取られたら上着をも取らせなさい」、「一ミリオン行くように強いるなら二ミリオン行きなさい」という非現実的にも思えるこの教えの背後には、当時、ローマ帝国が支配する世の中にあって、ユダヤ人たちが侮辱され、搾取されていた状況が関わっています。圧倒的な権力を前にして彼らは、やり返すことなんて到底できなかったのです。その中で、卑屈になったり、損する事を恐れたり、受け身になったりするのではなく、全てをご存知で、最後に必ず公正な裁きをされる父なる神への信仰をもって、悪や不正に対して処することをイエス様は教えられたのです。

●今日の箇所から引いた英語の慣用句で「Go the extra Mile」という言葉があります。「期待される以上の事をする」という意味で用いられますが、教会において大切にされている精神です。「これ以上は必要も義務もない」という行動原理では決して生まれ得ない奇跡や変化、また神様からの祝福があることをイエス様は教えられ、そして自らが十字架の死と復活をもって示されたのです。

●「神さまは悪人にも善人にも太陽を昇らせる」という言葉は「神さまはすべての人にイエス様の命を与え、すべての命を愛しておられる」ということを意味しています。私たちは、完全な善人もいなければ、完全な悪人もいません。私たちが罪を知らされる時には、イエス様の無償の愛と赦しが示され、また私たちが誰かから侮辱されたり、不当な仕打ちにあったりするその中であっては、イエス様が共にいて下さり、神への信仰と愛を持って生き抜く力を与えてくださるのです。

太陽の日差しも、ふる雨も、それをありがたいと思うことを忘れてるように、私たちは、沢山の神さまからの恵みに包まれて生かされている事を忘れてしています。今朝ご一緒にその愛をしっかりと受け止めて、聖霊の力によって共に「Go the extra Mile (さらに一マイル)」の歩みへと押し出されていきたい。そう願います。